

# ～今、市民の森では！～



作成: NPO 法人 ハケ岳森林文化の会 森林観察学習部会  
(Tel: 0266-75-1772 Mail: shimirin\_bunka@yahoo.co.jp)  
掲示許可: 茅野市 環境課 環境保全係

メンバーから市民の森を散策される皆さんへ、メッセージをお届けします。市民の森の現在の様子(咲いている花、飛んでいる蝶など)をお伝えしますので、ご参考に、気持ちの良い散策をお楽しみください。月例観察会は、1回参加も受け付けております。

お問い合わせは 75-1772。  
記号の説明:  
①xx:ガイドブック「市民の森に集う」xxページ参照  
②xx:ガイドブック2「森を楽しむ」xxページ参照

昆虫も沢山掲載

茅野市 市民の森ガイドブック「市民の森に集う」(新書版144ページ)は茅野市役所 環境課 環境保全係で無料配布しております。是非、散策のお供に！

WEB図鑑を作りました。  
花の色、開花月、花の名前で検索できます。  
この地域での、散歩などに、活用ください。  
<https://8moribunka.sakura.ne.jp/shimimoriguide/>

キノコの季節 (悦)  
今年のキノコの出が遅いのですが、そろそろ、出るはずと、小山明人さん(ハケ岳総合博物館 市民研究員 キノコ班講師)に講師をお願いし、午前中はキノコ中心の観察をしました。  
まずは、四阿でキノコの基本知識を見本に持ち込んだキノコを見ながら解説していただきました。キノコは森では重要な働きをしています。食毒だけでなくキノコの働きについても丁寧に分かりやすい解説を頂き、きつと、みなさん、キノコを再認識したと思います。  
午前のコースは沢沿いの小径→野鳥の小径→池です。カラマツ林でお馴染みのハナグイグ子はありませんでした。夕食に美味しいおかずになったようです。  
午後は、午前のキノコ、キノコで頭一杯、お腹も一杯、南コースをカマツラの匂いを楽しみながら駐車場へ戻り、早めに終了しました。



森の中も、まだ暑い一日でした。

タマゴタケでワイン (驚2)  
楽しみにしていた「きのこ」観察会。とても暑い今年の夏、「ジコボウ」には出会いませんでしたが、いくつもの「タマゴタケ」を発見。大切に持って帰りました。  
ワイン ♡ に合う「タマゴタケとエノキのマリネ」で乾杯。美味しく頂きました。自然の恵みに感謝です。



美味しい! (古)  
1年ぶりのタマゴタケ。オリーブオイルで炒めたら形も丸くなく半分以下の大きさになってしまいました。とても美味しいです。



## 秋の出会い (黒)

まだまだ夏とされているが、自然界ではもう秋の様子。ス々の市民の森は、キノコがいろいろ出ている。そろそろ秋本番もすぐそこまで来ているよう。

講師の先生がいろいろ説明してくれるが、こちらの頭はなかなかすんなりとは覚えてくれない。沢山のキノコがあったが、やっぱり色がはっきりしているのが心に残る。真っ白、こい紫色、真っ赤、など。

●そんな中で、ひときわ目を引いたのがドキドキとするような濃い紫のきのこ。ムラサキなんか? (ワラムラサキ) 怪しげな魅力を撒き散らしていた。



●次に印象に残ったのは、やっぱりスミナガシの幼虫。うまい貝合に、仮面をつけた状態。青く光る角を振上げて威嚇する様子は、圧倒的。無事に育って美しい蝶になって。



●秋の花、アケボノソウが咲いていた。蜜と花粉の位置にいつも不思議に思うのだが、蜜腺が花びらの端にある。これでは虫が蜜を食べ、花粉を運ぶ、その足取りが?



●最後に小さなヒメツチグリ(の仲間)に出会う。親指の爪くらいの大きさ。いろいろな生き物がいることにまたまた感嘆。



## 9月観察した植物

- <花>  
★ ユックウ①97  
★ ナンテンハギ①107  
★ ミズヒキ①103  
★ ミソバ①104  
★ ツリフネソウ①118  
● ユウガギク①110  
● ゲンシヨウク①100  
● ハナタデ①96  
● ナンバハノコベ①96  
● マツアサ  
● ダイコンソウ①86  
● キバナアキギ①105  
● キンミスヒキ①101  
<果実>  
● ウバユリ①97  
● ミドリヒメゼンソウ②30  
● ガマズミ①88  
● ウツギ①88  
● ウリカエデ①68  
● イチヤクソウ①94  
● サウフタギ①74  
● ツノハシナミ①67  
● カラコギカエデ①132

## 9月観察した動物

- <蝶>  
● キタキチヨウ②110  
● ジャノメチヨウ②116  
● クロヒカガ②116  
● ミドリヒヨウモン②113  
● スミナガシの幼虫②115  
<ガ>  
● アゲハモドキ幼虫  
<トンボ>  
● オニヤンマ②127  
● シオアカトンボ②128  
● アキアカネの仲間  
<ゼミ>  
● ミンミンゼミ鳴き声  
<甲虫>  
● キマフジ②124  
● カマムシ  
● ジュウシナガカマムシ②130  
<その他の昆虫>  
● ゲンゴロウ  
● マツノクロホシハハチの幼虫

秋はもう少しさきですか? (口)  
四阿から沢沿いの小径に降りる坂道に丸い白い物が2個。その先にツボを破ったキノコ



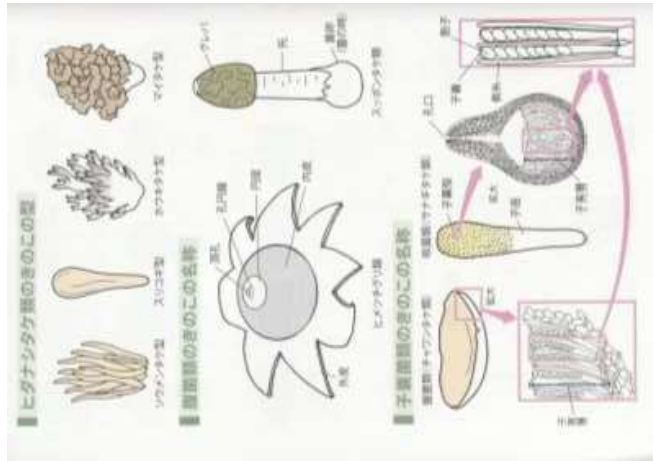
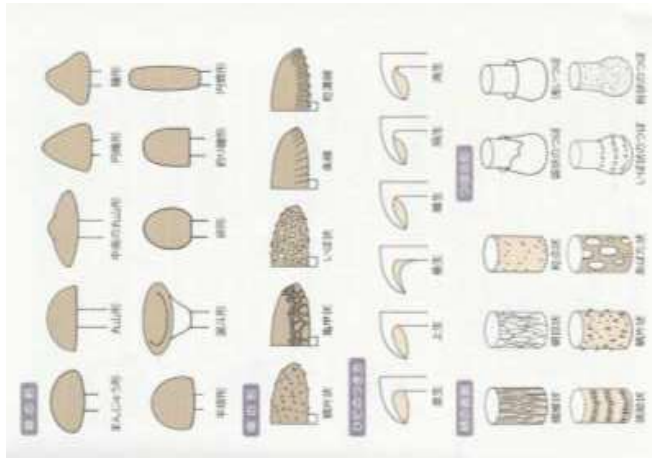
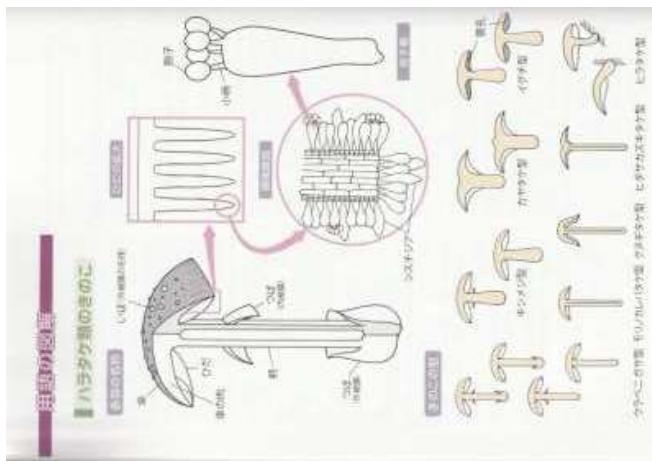
割って見ました。キノコの形確認



これは食べられるキノコでハツタケ(初音)、傷つけるとその部分が紫色になる特徴があるそうです。旨味があった人気のキノコと聞きますが、一回戻ただけでは見つけることは難しそうです。

きのこの基礎を学びましょう! (悦)

用語解説 出典:「青森県産 きのこの図鑑」 アクセス21出版発行



出典:NEO POCKET きのこと 発行:小学館の図鑑

キバナアキギリの受粉の仕組み (天)



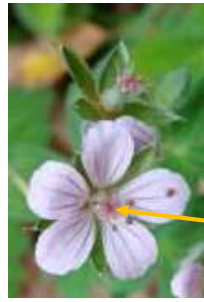
キバナアキギリ(シソ科 アキギリ属)日本固有種  
名前も行きまいも素敵ですが、よく見ると紫色の蛇の舌みた  
いなもの飛び出ている。ナニコレ?と調べるとこれは雌  
蕊だが、受粉の仕組みが難しい!  
雄蕊4個のうち2個は花粉を作る本雄蕊。2個は筒が退化し  
た仮雄蕊。虫が花に潜り込み仮雄蕊の筒を押すと、花糸と  
筒隔の接点を支点にし、本雄蕊の筒がシーソーのように下  
ろ〜ん、来年も要観察!

後日確認に行くと、既に花は無く、萼の中に種ができ始めていた。



ゲンシヨウウコの戦略

自家受粉を避けるため雌性先熟(雄蕊が先に熟して花粉を出し、出し終わって萎んだ後に雌蕊が開く)



ツリフネソウの観察ポイント

① 雌しべ、雄しべの位置



ツリフネソウは、5本の雌しべが合着し、その中に雌しべが包み込まれています。自家受粉を避けるために、雄しべが先に花粉を出し、役目を終えた後から雌しべの柱頭が出てきます。雌性先熟

② 距(蜜がある場所)



ツリフネソウは虫媒花で、長く巻いた距の奥に蜜を用意し、口吻が長いトラマルハナバチ等の送粉者を呼び、背中につけて運んでもらいます。

しかし、長い口吻を持たないワママバチなどが、花の横に穴を開けて、蜜を横取りしてしまう(盗蜜)こともあります。

③ タネの飛ばし方



タネを包む外皮が丸がる反動で遠くまでタネを飛ばします。

池のゲンゴロウ (悦)

ゲンゴロウは、長野県で準絶滅危惧種(NP)となっています。原因は水辺の環境の減少が考えられますので、市民の森の水辺の環境は貴重な存在です。

